くして石垣一角杉田四郎兵衛二百余人にて殿所門まで出合ひけ
り地蔵丸時十郎とそで一生を打ち切地にして頃日の軍法定
めて乃四郎兵衛殿と打ちわたして物別れとなる長英は浜能
郷にて敵を送りこれ徒にて谷地白岩の敵を追拂ひくして
近隣の兵を催し人数凡同二千余なる敵充満ちなることなれ
ば是に対する地蔵丸は七百山七百打越して来り姫
ぶで俗名ひ原生といふ所にて敵の極なる長谷
く近拂ひ味方の損を助け兵粮を与へ百民を安らかせ沼
手通足立叶及みて而し本海林在城なんば氏遊やしなる
再高見ることもなく一方の軍将下長化寺井上半之助戸井沢下
の人々と下法寺と一つに成り皆々谷地の郷へ入り諸軍の足を
休めて居たりしに一人知らぬ者を連れ来る沼の遠き者ども
今年長谷地宮内方にて村を張りて防ぎ合ひ
長谷地郷家をぶやうにて只軍の知らぬ敵ばかりそで
ある間しては方々にて大勝一の郷元々八月上旬之所元井出為
なれ八下法寺四郎兵衛小野寺助兵衛永井左近
之助殿にて若松国にて其外三千余人にて上る生海林四
郎殿を使